

《共通科目》

| | | | | | |
|---------|--|-------|----|----------|-------|
| 授業科目名 | 研究 方法 B-Ⅱ (質 的 研 究 方 法) <i>Research Methods B- II</i> | | | 担当教員 | 鈴木 清史 |
| 開講年次 | 1年後期 | セメスター | 2 | 時間数(単位数) | 15(1) |
| 必修選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 | 使用教室 | |
| 授業の目的 | 質的研究手法に基づく多様な事例の研究を通して、その応用性と汎用性を理解することで質的研究法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 質的研究の事例から、この手法の特徴を学ぶ 2. 自らが取り組もうとする研究課題にふさわしい研究手法を確認できるようになる | | | | |
| 授業計画 | 1回 質的研究とは 2回 研究対象の多様性 3回 質的データ収集法 その1 4回 質的データ収集法 その2 5回 エスノグラフィー：その特徴と有効性 6回 ライフヒストリーとその有効そして限界 7回 混合法(ミックスト・メソッド)とグラウンディッド・セオリー 8回 質的研究法の整理とまとめ | | | | |
| 学習方法 | 文献資料を事前に提示するので、それらを読み、授業での議論に備える。 | | | | |
| オフィスアワー | 基本的には火～金の 12:20-13:00 | | | | |
| テキスト | 特に指定しない(必要に応じて資料配布) | | | | |
| 参考文献 | Thomas Hylland Eriksen, What is Anthropology? 2004, 鈴木 清史(訳): 人類学とは何か. 京都, 世界思想社, 2008. 鈴木 清史, 山本 誠(編): 装いの人類学. 京都, 人文書院, 1999. | | | | |
| 評価方法 | 授業中の議論等への参加(40%)・レポート(40%)・小レポート(20%)を通して総合的に判断する | | | | |